

荷物の置き場に困らないベンチ

Bench for luggage storage

学生氏名：岩崎 陸
 教員氏名：坂元 愛史

サレジオ工業高等専門学校デザイン学科 インテリア・家具研究室

研究前半は産学公連携八王子いちようホールベンチプロジェクトで芸術文化会館改修に伴うベンチの提案を行った。後半ではそこで得た知見を基に荷物の多い旅行者向けのベンチについて研究と提案を行う。

キーワード：家具、パブリックファニチャー

1. 研究目的

本校の寮生は毎週末に自宅へ戻る規則になっている。帰路に着くのは部活動後の遅い時間となるため、交通機関などさまざまな場所で疲れた人が多く存在するタイミングと重なってしまう。ここで大きな荷物を周囲の人に迷惑をかけないように運んだり、途中で一時的に下す場所を確保することには意外なほど困難がある。そのような思いを持つ中で、産学公連携八王子いちようホールベンチプロジェクトへのお誘いをいただいた。多くの人が行きかう場所での荷物の問題について、その解決案を外部から評価してもらえるいい機会だと考え参加することにしました。前期ではいちようホールに特化したベンチ案を提案し評価を得ることができた。これをもとに後期の研究ではより広い範囲に適用できるアイデアを検討、提案する

2. 調査内容

いちようホールのベンチデザイン提案を行うにあたり、改装中のホール内を4月24日に見学させてもらった。

設置個所は以下の3つ。

・1 階受付ロビー(1)

手前は吹き抜けのため広々していた。上からモビールが吊るされる予定

・1 階受付ロビー奥 (小上り空間) (2)

思ったより天井が低い 入っていいのか不安

・2 階ホール入口(3)

窓が大きく開放感があるが、1階は暗い、その両方で形状に違いがあった方がいいのではないかと



1.1 階受付ロビー 2.1 階受付ロビー奥 3.2 階ホール入口

また使用イメージとして、講演を観た後に内容を語り合ったり 集団で交流(感激の共有)ができるような場所が必要とされた。

以上の現地調査・考察を踏まえ研究室全員で各自、様々な角度からアイデア出しを行った。打ち合わせで得られた反応と分析は以下の通り。(表1)

表1

| | |
|-------------------|---|
| 案出しを通して先方が思っていたこと | 『いちようホール側』 人との交流が増えるようなベンチ 『八王子市側』 公共空間として、リラックスしすぎるものは好ましくない |
| 反応をもとにした分析 | 空間に馴染ませることにとらわれず ホールを表すようなランドマーク的な要素 移動させたりすることで生まれるコミュニティ 寝そべってしまう人への対策 (肘掛けをつけるなど) |

以前に使用されていたベンチは、いちようホールが建設された当初、有名デザイナーに依頼し作られたもので、時代に合わせた活用が出来ないため

今回の改修工事に合わせて廃棄し、多摩産材を使用した新しいベンチに置き換えることになった。



間を少しでも楽にできるようなベンチを制作し提案していきたい。

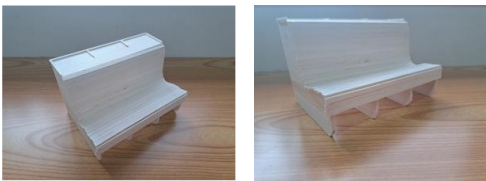
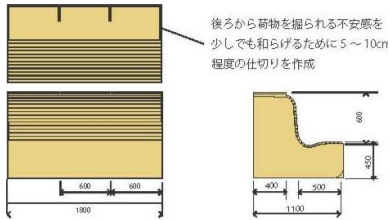
調査対象

八王子市芸術文化会館（いちようホール） 〒192-0066 東京都八王子市本町 24-1

3. コンセプトおよびアイデア展開

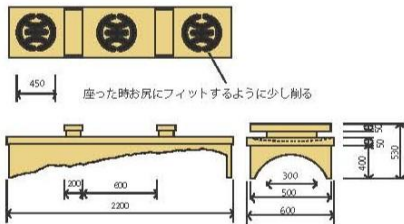
1案 | 荷物置き

ベンチなどに座るとき荷物の置き場困るので背もたれの上に物を置くスペースを作った。



2案 | 八王子

こちらは荷物へのアプローチではなく八王子のイメージを最優先したもので、座面には市のロゴを入れ、なおかつ、正面から見たときの幕板が高尾の山並みに見える表現を狙った。



4. 今後の取り組み

前半で出した案を発展させ、荷物が多い人でもパーソナルスペースを守り公共交通機関の待ち時